

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年2月10日

**【四半期会計期間】** 第59期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

**【会社名】** ノーリツ鋼機株式会社

**【英訳名】** Noritsu Koki Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長CEO 西本博嗣

**【本店の所在の場所】** 和歌山市梅原579番地の1

**【電話番号】** (073)406 - 5678(代表)

**【事務連絡者氏名】** IR・PR・ER室長 谷口博則

**【最寄りの連絡場所】** 和歌山市梅原579番地の1

**【電話番号】** (073)406 - 5678(代表)

**【事務連絡者氏名】** IR・PR・ER室長 谷口博則

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第58期 第3四半期 連結累計期間	第59期 第3四半期 連結累計期間	第58期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	17,030	40,471	27,379
経常利益 (百万円)	382	2,194	952
四半期(当期)純利益 (百万円)	565	899	417
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	325	2,236	1,376
純資産額 (百万円)	55,845	60,273	56,896
総資産額 (百万円)	78,270	92,233	80,849
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	15.89	25.26	11.71
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	71.3	63.6	70.4

回次	第58期 第3四半期 連結会計期間	第59期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	13.75	14.33

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

### （医療）

株式取得による子会社化に伴い、株式会社日本医療データセンター、フィード株式会社、株式会社アイメディックを第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

### （シニア・ライフ）

株式取得による子会社化に伴い、株式会社秋田ケーブルテレビを第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当社グループの当第3四半期連結累計期間の業績結果においては、前連結会計年度よりいきいき株式会社及び株式会社全国通販によるシニア向けの出版・通信販売等の事業が加わったこと、並びに第1四半期連結会計期間より株式会社日本医療データセンター、フィード株式会社及び株式会社アイメディックによる医療事業が加わったことから、前年同期と比較し大幅な増収、増益となりました。その結果、売上高は404億71百万円（前年同期比137.6%増）、営業利益は23億7百万円（前年同期比562.8%増）、経常利益は21億94百万円（前年同期比473.6%増）、四半期純利益は8億99百万円（前年同期比59.0%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、各セグメント別の売上高は外部顧客への売上高を記載しており、またセグメント損益（営業損益）は各セグメント間取引の調整額を加算したものであります。

#### イメージング

写真処理機器においては、北米でのサービスの販売拡大、為替環境の好転により、売上高は110億81百万円と前年同期と比べ17億39百万円（18.6%増）の増収となりました。

セグメント利益（営業利益）は、為替による増収効果もあり、3億56百万円（前年同期は営業損失52百万円）と前年同期と比べ4億9百万円の増益となりました。

#### 環境

環境ソリューションブランド「Re:ray（リレー）」を新機軸にLEDライティングなどの販売活動に注力しましたが、全体の販売数量は前年同期を下回り、売上高は15億82百万円と前年同期と比べ2億91百万円（15.5%減）の減収となりました。

セグメント損失（営業損失）は、前年同期と比べ収益構造を改善し、26百万円（前年同期は営業損失1億28百万円）となりました。

## 食

前連結会計年度より業務用厨房機器業界へ参入し、販売を開始した水循環式電気フライヤー等の売上が好調に推移した結果、売上高は3億55百万円と前年同期と比べ2億76百万円(347.6%増)の増収となりました。

しかしながら、セグメント損失(営業損失)は、販売体制強化のための人員の補強などにより販管費が増加し、62百万円(前年同期は営業損失34百万円)と前年同期と比べ28百万円の減益となりました。

## 医療

平成25年5月にレセプトデータの分析・調査データの提供を手掛ける株式会社日本医療データセンター、歯科及びその他医療機関に対する歯科材料・医療材料の通信販売を行うフィード株式会社、整形外科領域におけるインプラント器具の製造・販売を行う株式会社アイメディックなどが当社グループに加わったことにより事業領域が拡大しました。その結果、売上高は83億15百万円と前年同期と比べ68億97百万円(486.8%増)の増収となりました。

上述の事業領域の拡大に伴い、セグメント利益(営業利益)は6億28百万円(前年同期は営業利益39百万円)と前年同期と比べ5億88百万円の増益となりました。

## シニア・ライフ

平成24年9月にシニア向け出版・通信販売等を手掛けるいきいき株式会社、また平成24年12月に株式会社全国通販が当社グループに加わったことにより事業領域が拡大しました。その結果、売上高は187億97百万円と前年同期と比べ148億24百万円(373.2%増)の増収となりました。

上述の事業領域の拡大に伴い、セグメント利益(営業利益)は11億80百万円(前年同期は営業利益3億46百万円)と前年同期と比べ8億33百万円の増益となりました。

## その他

その他の事業におきましては、売上高が3億38百万円、セグメント利益(営業利益)が2億21百万円となりました。

## (2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は922億33百万円となり、主に子会社取得により前連結会計年度末と比較して113億83百万円増加しました。

流動資産は、65億24百万円の増加となりました。これは主に現金及び預金が44億22百万円、受取手形及び売掛金が21億94百万円、たな卸資産が16億78百万円増加し、償還等により有価証券が25億45百万円減少したことによるものです。

固定資産は、48億59百万円の増加となりました。これは有形固定資産が19億26百万円、のれんの計上額が13億83百万円増加したことによるものです。

負債は、80億6百万円の増加となりました。これは長期借入金が28億24百万円、短期借入金15億円、支払手形及び買掛金が14億45百万円増加したことによるものです。

純資産は、33億77百万円の増加となりました。これは主に四半期純利益8億99百万円の計上と配当実施の結果、利益剰余金が6億14百万円増加したこと、為替換算調整勘定が9億36百万円増加したこと及び少数株主持分が15億49百万円増加したことによるものです。

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた問題はありません。

## (4) 研究開発活動

当社グループの当第3四半期連結累計期間の研究開発費に係る総額は6億35百万円(当第3四半期連結累計期間の総製造費用に計上した試験研究費1億42百万円を含む)となっております。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

## (5) 従業員数

当第3四半期連結累計期間において、医療事業における従業員数が206名増加しております。その主な理由は、株式会社日本医療データセンター、フィード株式会社、株式会社アイメディックを連結子会社化したことによるものです。

なお、従業員数は就業人員(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であり、臨時雇用者(パートタイム労働者及び派遣社員)は含んでおりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	64,000,000
計	64,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	36,190,872	36,190,872	東京証券取引所 市場第一部	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式 単元株式数は100株
計	36,190,872	36,190,872		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年10月1日 ～平成25年12月31日		36,190,872		7,025		17,913

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 576,800		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 35,610,400	356,104	同上
単元未満株式	普通株式 3,672		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	36,190,872		
総株主の議決権		356,104	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が400株(議決権4個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式47株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
(自己保有株式) ノーリツ鋼機株式会社	和歌山市梅原 579番地の1	576,800		576,800	1.59
計		576,800		576,800	1.59

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	18,575	22,998
受取手形及び売掛金	<sup>2</sup> 4,942	<sup>2</sup> 7,136
有価証券	8,190	5,644
商品及び製品	6,521	8,115
仕掛品	304	356
原材料及び貯蔵品	193	225
繰延税金資産	538	680
その他	4,177	5,000
貸倒引当金	1,631	1,822
流動資産合計	41,811	48,336
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	29,004	32,755
機械装置及び運搬具	7,352	9,694
土地	12,168	12,222
建設仮勘定	12	9
その他	13,275	13,658
減価償却累計額	41,660	46,261
有形固定資産合計	20,152	22,079
無形固定資産		
のれん	12,433	13,817
その他	526	930
無形固定資産合計	12,960	14,748
投資その他の資産		
投資有価証券	3,110	3,486
長期貸付金	528	1,453
繰延税金資産	613	670
その他	2,269	2,864
貸倒引当金	596	1,404
投資その他の資産合計	5,924	7,069
固定資産合計	39,037	43,897
資産合計	80,849	92,233

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,149	4,595
短期借入金	500	2,000
1年内返済予定の長期借入金	1,006	1,546
未払法人税等	393	632
繰延税金負債	0	0
賞与引当金	303	212
債務保証損失引当金	41	12
製品保証引当金	247	359
ポイント引当金	252	238
その他	4,357	5,188
流動負債合計	10,253	14,786
固定負債		
長期借入金	12,933	15,758
繰延税金負債	166	331
退職給付引当金	32	119
その他	567	963
固定負債合計	13,700	17,173
負債合計	23,953	31,959
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	7,025	7,025
資本剰余金	17,913	17,913
利益剰余金	37,499	38,113
自己株式	1,211	1,211
株主資本合計	61,226	61,841
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	264
為替換算調整勘定	4,339	3,402
その他の包括利益累計額合計	4,342	3,138
新株予約権	10	19
少数株主持分	1	1,550
純資産合計	56,896	60,273
負債純資産合計	80,849	92,233

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	17,030	40,471
売上原価	8,500	19,348
売上総利益	8,530	21,122
販売費及び一般管理費	8,182	18,814
営業利益	348	2,307
営業外収益		
受取利息	263	253
受取配当金	36	34
為替差益	-	61
その他	146	168
営業外収益合計	446	519
営業外費用		
支払利息	90	206
為替差損	38	-
持分法による投資損失	214	175
付加価値税還付不能額	-	83
その他	68	168
営業外費用合計	412	632
経常利益	382	2,194
特別利益		
固定資産売却益	29	4
投資有価証券売却益	117	-
負ののれん発生益	-	693
特別利益合計	147	697
特別損失		
固定資産除売却損	9	32
貸倒引当金繰入額	-	333
投資有価証券売却損	-	46
投資有価証券評価損	-	2
製品保証費用	-	110
構造改革費用	-	248
特別損失合計	9	772
税金等調整前四半期純利益	520	2,120
法人税等	45	1,087
少数株主損益調整前四半期純利益	565	1,032
少数株主利益	0	133
四半期純利益	565	899

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	565	1,032
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	205	266
為替換算調整勘定	52	930
持分法適用会社に対する持分相当額	17	6
その他の包括利益合計	240	1,203
四半期包括利益	325	2,236
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	325	2,103
少数株主に係る四半期包括利益	0	133

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日至平成25年12月31日)
連結の範囲の重要な変更 第1四半期連結会計期間より、株式取得による子会社化に伴い(株)日本医療データセンター、フィード(株)、(株)アイメディック及び(株)秋田ケーブルテレビを連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日至平成25年12月31日)
税金費用の計算 税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日至平成25年12月31日)
重要な子会社の持分の譲渡 当社は、平成25年12月26日開催の取締役会において、当社の連結子会社である諾日士貿易(上海)有限公司の全持分をKANISHI TRADING COMPANY LIMITEDへ譲渡することを決議し、同日付で譲渡契約を締結いたしました。なお、本譲渡により、諾日士貿易(上海)有限公司は、当社の連結の範囲から除外されることとなります。
1 譲渡の理由 近年のイメージング事業における写真市場縮小により、当該子会社の経営戦略の見直しや事業性ならびに将来性を検討した結果、現時点において当社主導の事業継続ではなく、持分譲渡の相手先が中国市場で販売代理店として活動していくことが好ましいと判断いたしました。
2 譲渡する相手会社の名称 KANISHI TRADING COMPANY LIMITED
3 譲渡完了日 平成26年3月(予定)
4 損益に与える影響額 約207百万円の特別損失を計上する見込みであります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

(1) リース利用により当社製品を購入した顧客のリース契約に関する債務保証残高は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
JA三井リース㈱	172百万円	JA三井リース㈱	136百万円
三井住友ファイナンス& リース㈱	87	三井住友ファイナンス& リース㈱	59
akf bank GmbH & Co.	63	Safra Leasing S.A. Arrendamento Mercantil	23
akf leasing GmbH & Co. Safra Leasing S.A. Arrendamento Mercantil	24	akf bank GmbH & Co.	23
	22	AKF Leasing Polska S.A.	10
その他(11社)	63	その他(3社)	8
合計	433	合計	261

(2) 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
韓国CITIBANK	64百万円	韓国CITIBANK	39百万円
東亜銀行	5	東亜銀行	
合計	70	合計	39

2 四半期連結会計期間末日満期手形等

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
受取手形	32百万円	64百万円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
減価償却費	609百万円	1,241百万円
のれんの償却額	292	615

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	106	3	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	106	3	平成24年9月30日	平成24年12月5日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	142	4	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金
平成25年11月6日 取締役会	普通株式	142	4	平成25年9月30日	平成25年12月4日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期 連結損益 計算書 計上額
	イメー ジング	環境	食	医療	シニア ・ライフ	その他	計		
売上高									
外部顧客への売上高	9,342	1,873	79	1,417	3,972	345	17,030		17,030
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0					0	0	0	
計	9,342	1,873	79	1,417	3,972	345	17,030	0	17,030
セグメント利益又は損失( )	52	128	34	39	346	174	345	2	348

(注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額2百万円には、セグメント間取引消去2百万円が含まれております。

2 当社はセグメント利益を算定するにあたり、事業セグメントに直接配賦できない販売費及び一般管理費をその発生により便益を受ける程度に応じ、合理的な基準によって関連する報告セグメントに配賦しております。配賦した販売費及び一般管理費の合計は2,392百万円であり、各報告セグメントへの配賦金額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	イメー ジング	環境	食	医療	シニア ・ライフ	その他	計
全社費用配賦前の セグメント利益	1,775	49	9	125	498	279	2,737
全社費用	1,827	177	44	85	151	105	2,392
セグメント利益又は損失( )	52	128	34	39	346	174	345

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「医療」「シニア・ライフ」セグメントにおいて、いきいき株式会社等の株式取得時における時価純資産額が取得原価を下回ったため、その差額をのれんとして認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、第3四半期連結累計期間においては100億78百万円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント							調整額 (注)	四半期 連結損益 計算書 計上額
	イメ ージ ング	環 境	食	医 療	シニア ・ ライ フ	そ の 他	計		
売上高									
外部顧客への売上高	11,081	1,582	355	8,315	18,797	338	40,471		40,471
セグメント間の内部 売上高又は振替高									
計	11,081	1,582	355	8,315	18,797	338	40,471		40,471
セグメント利益又は損失( )	356	26	62	628	1,180	221	2,297	10	2,307

- (注) 1 セグメント利益又は損失( )の調整額10百万円には、セグメント間取引消去10百万円が含まれております。  
2 当社はセグメント利益を算定するにあたり、事業セグメントに直接配賦できない販売費及び一般管理費をその発生により便益を受ける程度に応じ、合理的な基準によって関連する報告セグメントに配賦しております。配賦した販売費及び一般管理費の合計は2,338百万円であり、各報告セグメントへの配賦金額は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	イメ ージ ング	環 境	食	医 療	シニア ・ ライ フ	そ の 他	計
全社費用配賦前の セグメント利益	1,890	81	40	809	1,558	254	4,636
全社費用	1,534	107	103	181	378	32	2,338
セグメント利益又は損失( )	356	26	62	628	1,180	221	2,297

## 2 報告セグメントごとの資産に関する情報

(子会社の取得による資産の著しい増加)

第1四半期連結会計期間において、株式会社日本医療データセンター、フィード株式会社、株式会社アイメディック及び株式会社秋田ケーブルテレビの株式を取得し、連結の範囲に含めております。

これに伴い、前連結会計年度の末日に比べ、「医療」のセグメント資産が66億37百万円、「シニア・ライフ」のセグメント資産が43億65百万円増加しております。

## 3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「医療」セグメントにおいて、株式会社日本医療データセンターの株式取得時における時価純資産額が取得原価を下回ったため、その差額をのれんとして認識しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては19億99百万円であります。

## (重要な負ののれん発生益)

「医療」「シニア・ライフ」セグメントにおいて、フィード株式会社、株式会社アイメディック及び株式会社秋田ケーブルテレビの株式取得時における時価純資産額が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として認識しております。

なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては6億93百万円であります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	15円89銭	25円26銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	565	899
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	565	899
普通株式の期中平均株式数(株)	35,614,066	35,614,025
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

## 2【その他】

第59期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)中間配当について、平成25年11月6日開催の取締役会において、平成25年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	142百万円
1株当たりの金額	4円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成25年12月4日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 2月10日

ノーリツ鋼機株式会社

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 善 場 秀 明 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 高 濱 滋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているノーリツ鋼機株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ノーリツ鋼機株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。